

# Press Release

◆ 内容についてのお問い合わせ  
 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)  
 横浜国際センター 総務課 中小企業支援事業担当  
 TEL: 045-663-3252 (直通) FAX: 045-663-3265

2014年9月18日

報道関係各位

## 中小企業の海外展開を JICA が支援！ 水質・底質改善でエビ養殖産業の再生へ！ <フィリピンにおいて在来微生物の多様化を活用したエビ養殖技術で JICA と横浜市内企業・株式会社シーティーシーが連携>

国際協力機構 (JICA) は、9月2日付で株式会社シーティーシー (社長 前仲伸一) の提案する「食物連鎖促進及び在来土壌微生物多様化促進資材 (ルオール) を活用したエビ養殖産業の再生案件化調査」を仮採択しました。

フィリピン・ミンダナオ島の北東部に位置する北アグサン州は、かつて、エビ (ブラックタイガー) の一大養殖地でしたが、過剰に投与された餌などによる養殖池の水質をはじめ、生育環境の悪化のため 2000 年頃から病気によるエビの大量死が発生し、多くの養殖池が放棄されました。その結果、養殖池の総面積は最盛期の 2,800ha から 1,500ha に減少し、地域雇用の喪失も問題となっています。このような状況において、エビ養殖の収益性の向上及び放棄養殖池の再利用により、かつての基幹産業であったエビ養殖産業の再生を図り、地域経済の活性化と雇用の創出を行うことが求められています。



2010年5月10日



2011年12月9日

かつて、秋田県大潟村の、下水道処理場の沈殿池であった池において『ルオール』を用いた水質浄化試験を実施。上の写真は水の透明度の変化を示す。

今回仮採択した調査は、北アグサン州アグサン川河口周辺の低地帯において微生物の多様化・活性化を促進する製品「ルオール」を使い、自然界が有する自浄能力や食物連鎖の仕組みを利用し、エビ養殖池の水質・底質を改善するとともに、エビの餌となるプランクトンや藻の生育を促進させ、抗生物質を使わずエビの病気の発生を抑える効用を調査するものです。また、同時に「ルオール」を活用した政府開発援助 (ODA) 事業のアイデア及びビジネス展開計画を検討します。

この製品・技術を導入することにより、北アグサン州において水域環境への汚濁負荷を軽減しつつ、持続的なエビ生産を可能にし、エビ養殖産業の再生とエビの加工・流通も含めた産業の振興が期待されます。株式会社シーティーシーは、複数の現地企業との提携も検討しており、フィリピンにおけるエビ養殖の収益性の向上と環境保全を両立した産業の振興を目指しています。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術を ODA 事業に活用するための情報収集、事業計画立案等を支援することを目的としたものです。本事業は 2012 年度から実施されており、2014 年度は本年 5 月に公示を行いました。今回、176 件の応募のうち 26 件が仮採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

以上